

# 2020年8月1日

# 市

## 制施行50周年を迎えます



昭和45年8月1日、わたしたちのまちは、『登別町』から『登別市』になりました。昭和から平成、そして令和へと時代は移り変わり、来年、日本で22年ぶりに『オリンピック・パラリンピック競技大会』が開催され、隣町・白老町には、民族共生象徴空間『ウポポイ』が開設される記念すべき年、登別市は、市制施行から半世紀という大きな節目を迎えます。50周年まで、あと1年となった今号では、私たちのまち『登別市』の誕生を振り返るとともに、この大きな節目を記念した市の取り組みをお知らせします。

### 悲願の先に

私たちのまちが、『市』へと動き出したのは、昭和43年1月。登別町長宛てに、三重県久居町（のちの久居市、現在は津市）長から、届いた1通の親書がきっかけでした。

その内容は、「全国には、3万人以上の人口を有する町が32あります。地方自治法で、『市』となるべき基準は5万人以上とされていますが、市の中には、3万人を割っているとところもありますので、全国的に大同団結して共に市制実現運動を展開しようではありませんか」という趣旨のものでした。年々、人口が増加し、約4万3千人となっていた登別町は、

この親書を受けた全国の町と共に、同年5月、『新市制実現全国期成会』を結成。道内では、登別、亀田、恵庭、羽幌の4町がこの期成会に加わり、市制実現に向けて、運動を展開しました。

多くの自治体の思いを受け、翌年の昭和44年に、人口3万人以上5万人未満の町を市とする地方自治法の一部改正案が議員立法により地方行政委員会可決。法案成立は確実視されていました。

しかし、同年12月に衆議院が突如として解散。目前に迫っていた『登別市』は、一度、幻と消えてしまいました。

実現しかけた『登別市』。その夢をかなえるため、同法案の